

平成15年度 公共事業再評価調書(竹生川 統合河川改修 事業)
 (事業着手後10年経過、着手後5年間未改修、再評価後5年経過) 社会情勢の急激な変化)

評価確定日	平成15年 月 日
所管部課名	建設交通部 河川課

地区名	事業の概要	1 必要性の観点			2 事業進捗の見込みの観点				
		事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	事業の投資効果	[事業進捗の見込み]				
[河川名] 二級河川 たこうがわ 竹生川 (箇所名) 河口部 ~夏井沢川合流点 [所在地] 能代市 山本郡峰浜村	[事業の目的] 竹生川は、川幅が狭く蛇行が著しい原始河川であり、毎年氾濫被害が生じているため、これを解消することを目的として河川改修を行う。 [総合計画上の位置づけ] ・あきた21総合計画の中で快適で安全な生活を実現するため災害に強い県土づくりの一環として、河川改修等の推進が位置づけられている。 ・ほか峰浜村総合計画及び能代市総合計画では、水害の発生を未然に防ぐため、竹生川河川改修事業の促進が望まれている。 [事業の内容] ○延長 5, 420m ○築堤 5, 270m ○護岸 6, 910m2 ○道路橋 7橋 ○鉄道橋 1橋 ○事業期間 S58~H25 ○計画高水流量 250m3/s	[事業の経緯] S58年 事業採択年 S59年 用地着手年 S60年 工事着手年 H25年 完成予定年 [進捗状況] ○全体事業費 当初 40.0億円 (内用地費 4.4億円) 見直し 47.2億円 (内用地費 4.4億円) ○投資事業費 38.9億円 (内用地費 3.9億円) ○進捗率 82.4% (内用地費 88.6%) [長期継続の理由] 用地取得及び取排水等の付帯施設整備が多いため期間を要すること、予算制約により工期を要する。	[社会経済情勢の変化] 地元からは、浸水被害の防止のため、竹生川改修の早期完成を求められている。 ○災害発生時の影響(想定氾濫区域内) 浸水戸数 29戸 農地浸水面積 186.4ha ○過去の災害実績 最大浸水戸数 15戸(S47.8) 最大農地浸水面積 358.0ha(S47.8) ○災害発生時の危険度 改修目標流量に対する現況流下能力の割合約30% [地域の状況] ①地域開発の状況: 国道101号、五能線 ②地域の協力体制: 地元自治体は協力的である。 ③関連事業との整合性の変化: 圃場整備との整合が図られている ④地域の事業に対する社会的評価: 評価は高い [環境対策] ・現川を極力残した計画とし、自然河川の保全を図る。 ・護岸は、植生が生育できる工種を用いて、自然河川の復元を目指す。 ・水際部について、生物等に配慮した工法を用いて施工するとともに、瀬と淵の創出について工夫する。	[整備効果] 完成区間について浸水被害が軽減されており、治水効果が発現しているが、未改修区間は氾濫被害が発生している。 [費用の変化] 自然環境に配慮した河川改修に対応するため、事業費が増加している。 河川管理施設等構造令の改訂により、樋門・樋管・取水工の工事費が増加している。 [効果の変化] 物価上昇により資産価値が増加している。 [費用対効果] <table border="1"> <tr> <td>再評価時</td> <td>2.78</td> </tr> <tr> <td>採択基準</td> <td>1.00</td> </tr> </table>	再評価時	2.78	採択基準	1.00	[事業進捗の見込み] 事業を進める上で支障はなく、掘削、築堤、護岸整備は予定通り完成する見込みである。 3 コスト縮減や代替案立案等の可能性の観点 [コスト削減の可能性] 引き続き必要最小限の護岸整備とすると共に、護岸工種の検討によりコスト縮減を図る。 [代替案立案の可能性] 代替案立案の必要性はない。
再評価時	2.78								
採択基準	1.00								
再評価の結果		対応方針(案)及びその理由			公共事業評価専門委員会の意見				
継続中止		[対応方針(案)] 計画どおり、平成25年度の完成を図る。 [理由] 未改修区間に集落が点在しており、近年の出水においても耕地冠水被害や一部家屋浸水被害が発生しており、浸水被害を防止するため早期に改修を実施する必要がある。 費用対効果も1.0を越えており、経済的にも妥当と判断される。							